

## 東京医療学院大学 保健医療学部

## 2022年度 学校推薦型選抜入試 小論文

次の文章は認知症の専門医が書いたものである、この文章を読み、設問に答えなさい。

ある日、認知症と診断されたという高齢の男性が、「セカンドオピニオン（別の医師の意見）として、先生の意見を聞きたい」とやってきました。ご本人とご家族によると、最近、急に症状が悪化したとのことで、雪の日に寝間着のまま外に飛び出して歩き回り、家に帰れなくなったところを近所の人が見つけて知らせてくれたこともあったそうです。まず、「お座りください」といって椅子を勧めると、その方は腰掛けるところがない椅子の裏側に回って腰をおろそうとされました。

「先生、聞きたいことがあるけど、質問していいですか」とおっしゃいます。

「もちろんです。どうぞ」というと、「どうして私がアルツハイマーになったんでしょうか。ほかの人じゃなくて」と聞くのです。アルツハイマー型認知症はアミロイドβというたんぱく質が脳に蓄積して、といった類の話ではなく、「ほかの誰かじゃなくて、なぜ自分がならなくちゃいけなかったのですか」というストレートな質問です。その方の表情はとても真剣で、何というか、全身から悲しみが滲み出ているような感じでした。

みなさんだったら、何と答えますか。

ボクは答えられなかったな。

認知症の方が真剣勝負で向かってこられたとき、その場しのぎの答えや生半可な慰めは通用しません。そんなときは、その方にきちんと向き合って、苦悩や悲しみに寄り添うしかない、それまでの臨床経験から感じていました。あるいは「人間の本質は変わりませんよ」というべきかとも思いましたが、そうしたことを話すよりも、ボクも一緒に悩みますよ、と伝えたいと思いました。

だからそのとき、ボクにできたことといえば、その方の手の上に自分の手を重ねて、「そうですねえ」といって握り続けることくらいでした。

（長谷川和夫著 『ボクはやっと認知症のことがわかった 自らも認知症になった専門医が、日本人に伝えたい遺言』 出版社 KADOKAWA より抜粋）

## 【設問】

問1. この文章を250～300字で要約しなさい。

問2. 筆者の考えに対し、あなたの意見を400～500字で述べなさい。